

2019年(平成31年)

第133号

(1月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

今月のことば ～みんな善の根っこをもっている～ 京都教会長 佐藤益弘

新年あけましておめでとうございます。

お蔭様で本年、京都教会は発足60周年を迎えさせて頂きました。いわば還暦です。おめでたいということのみならず、基に還る、原点に還って新たな精進をお誓いしたいと思ひます。

さて、弊会機関誌の平成31年『佼成』1月号に掲載されました会長先生ご法話は、「みんな善の根っこをもっている」という題であります。このタイトルを目にして私は、よく世間で使われております、「あの人、口は悪いけど、根はいい人なのよ」「あの人、一見ぶっきらぼうな人のように見えるけど、根はやさしい人よ」などと言ったり、そのような言葉を耳にしたりすることが多いのではないかと思います。それだけ、日本人の心の中に仏教が根づいているのだと思ひました。

前段の「乾いた根に潤いを与える」というご法話の中に、だれもが善根(ぜんこん)をもっており、その根幹を肯定することで、かさかさに乾いた根に潤いを与えられると教えていただきました。

ふりかえってみますと、私は根に注目することなく日々を過ごしております。根は丈夫だからこまめに面倒見ずとも、多少放っておいても問題ないという気持ちで過ごしておりました。

しかし、根も生き物である訳で、潤いが必要な存在に違いありません。生きていけるのだからこそ潤いを与え、より生き生きとしたものとなるのが大切であり、そのご縁によって自分も生き生きとした日々を過ごせるのだと気づきました。

言い換えれば、生かされ、生きる姿が身近に現れるということだと思います。自分自身の根幹を肯定していただくということは、別な表現をすれば、「拝まれている」ということではないかと思います。

反対に自分が拝ませて頂く立場に立って考えますと、自らのいのちの根幹を肯定する具体的な行為は、先祖供養にあたると思ひます。私という尊いいのちの根っこであるご先祖様は、みな素晴らしい、有難い存在だと、感謝する。

また、他人のいのちの根幹を肯定するということは、一人ひとりの仏性を合掌・礼拝し、讃嘆することだと受けとめました。こうした行を続けていくことで、自他ともに利益を得、その喜びを世間に広げていくことにつながっていくに違いないと信じます。

後段の「ほんとうの『正定聚』に」という中の最後に、「布教なくして宗教なし」というお話をお分け頂きました。そのことと同じく開祖さまが、かつて茨城の下館教会道場落慶式典で「座ったままの仏教は滅び、足を使って歩く仏教は栄える」というご法話を述べられたと伺いました。

開祖さまも、会長先生も布教の大切さを強調されています。つまり、「みんな善の根っこをもっている」ということを信じて、人さまの幸せを念じながら布教伝道に歩き続けることで、「ほんとうの『正定聚』」になれるということをお学ばせて頂きました。

これからも私どもにはその使命があることを自覚して、菩薩行に励んで参りたいと決定させていただきます。

合掌



時事刻々

あけましておめでとうございます。今年も京都教会が発足して六〇周年を迎えます。一九五九年十二月に、京都府・滋賀県を包括地域とする京都支部が発足しました▼一九六二年には南区唐橋に道場を落慶、一九六九年に支部から京都教会になりました。そして、一九九四年に、現在の三条ヶあげの新道場に移り、現在に至っています▼六十年前、東海道新幹線の起工式が行われ、日本の大動脈が築かれることになりました。NHK教育テレビやテレビ朝日、フジテレビなどが放送を始め、将来につながる事業がスタートしました▼一方、明治以降最大の被害をもたらした伊勢湾台風や、京都市、宇治市、福知山市などの各地の河川が氾濫した京都8・13水害といった災害が起こった年でもありました▼人類は多くの災難を乗り越えてきました。今年も、年号が変わるなど変化のある一年です。人々の叡智と神仏のご加護をもって、よりよき年にしていきたいものです。

2019年、私たちは「勇気をもって 私らしく やってみよう」を実践して参ります。

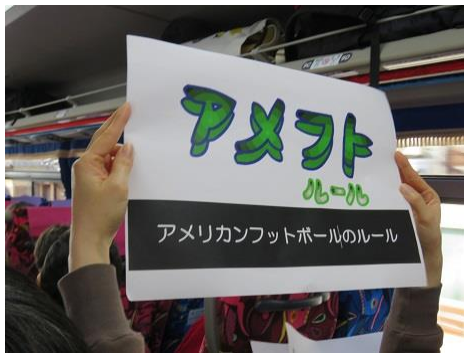
佼成学園高「ロータス」3連覇 ～アメフトの応援に会員でバス1台～

12月24日、アメリカンフットボールの第49回全国高校選手権決勝「クリスマスボウル」がヤンマーフィールド長居（大阪市）で行われ、3連覇を狙う佼成学園高「ロータス」（関東代表）と、5年ぶり出場の立命館宇治高「パンサーズ」（関西代表）が対戦し、京都教会からもバス1台の応援団を出しました。往路のバス車中、アメフトのルール説明を行い、初めての会員さんにも理解して頂きました。

応援団が到着した時はすでにエール交換が始まっており、会場は熱気一色。午後1時の試合開始後、終始、立命館宇治高のペースで展開し、佼成学園高が無得点

のまま21点の大差をつけられた時には、3連覇の夢は消えたと思われていましたが、応援団はあきらめずスタンドで歓声を送り続け、佼成学園高が相手のミスを見逃さず、第4クォーターで大差をひっくり返した時には、悲鳴とも思える大歓声で大いに沸きあがりました。

帰路の車中で佐藤教会長は、選手が数日前から大阪普門館に宿泊していたことやアメフトの有名な関西大学に既に進学が決定している生徒がいることなどを披露。教団創立80周年のおしまいに素晴らしいプレゼントを頂いたと結ばれました。



平安月報を担当して、その後どうしてるかな？の会 担当者で分かち合い

平安月報の「今月のことば」は会長先生のご法話を自分自身がどのように受け止め、どう実践していきたいかを掲載しています。2017年から2018年の2年間、青年部員や青少年育成に携わる方々に執筆してもらいました。

12月1日、9名の方に集ってもらい、執筆後、どのようにしているかを語ってもらいました。

- 担当の声をかけられたとき、どう思ったかとの問いに「大変困った」が最も多かった。
 - 担当以前から「佼成はそれまで読んでいた」というのは、ほぼ全員。
 - 執筆後、生活が変わったのかの問いに全員が「はい」
 - 今も佼成は拝読しているかにも全員が「はい」
- 今月の会長先生のご法話を自分なりに解説するとすればどうするかな…と自身の生活に当てはめて考える癖がついたという感想が印象的だった。

話題は、「そもそも何故、教会に来ているのか」へ。

- 仏さまからプレゼント（子供を授かった）を頂いた
- 教えが納得できるから
- 小さい頃から家が会員で私は3代目。教会の人に大きく育ててもらってきたから
- 会員でなかったら出会えなかった人がいる
- 人と会えるから教会に来る

- 通信制学校のため、他の学生さんと会う機会がないがここに来ると人に会えるし、司会などお役すると褒められる。自分を見てもらえる場所
- 初代ではないので、すごい信心があるわけではない
- 普通の生活が出来ていることに感謝出来るようになってきた
- 受け止め方を教えてもらえる
- 幸せになりたいからここに来ている。身内に教えてもらっても聞けない自分がある
- 今までの自分を変えたかった。家は違う信仰をしているが、私はここに来た
- 素晴らしい主人と巡り合えたのは母の徳のお陰かなと思えた。今度は自分が子供にしてあげたい
- ここは自分が幸せになりたいと思ったらなれる場所だと思う。

以上、さまざまな体験を出して頂き、終始和やかな雰囲気のもとで終了しました。



祝 発足60周年 ～投票でロゴマークが決定!!～

今年、京都教会が発足 60 周年を迎えるにあたり、教会内外の方々に親しみを持って頂くため、昨年末にロゴマークを募集したところ 22 通の応募がありました。12 月 15 日のご命日に参拝した会員が投票を行い、ロゴマークが決定しました。

今年 1 年、各種行事のパンフレットに掲載が予定される他、さまざまなグッズの企画が進行しており、それらに掲載されます。



教会大掃除 ～感謝の気持ちで心も磨く～

12 月 23 日、年末の教会大掃除があり、多くの会員が参加しました。9 時のご供養後、佐藤教会長の心構え、管理から清掃に関する注意事項の説明のあと、一同は一年間の感謝の気持ちで、各支部、各部の担当に分かれて行いました。



暮らしの中の憲法 ～高校生が自身の感想を発表～

12 月 15 日のご命日において、毎月 15 日に行われている「佼成」の「暮らしの中の憲法」の拝読を、高校 3 年生の西田友希乃さんにして頂きました。

自身が来年 18 歳になり選挙権を得られるが、実際には選挙や政治のことは知らないと発表。憲法改正といっても何も変わらないと思っていたが、それは自分自身が政治を知らないから、また過去を知らないから

だと吐露。選挙権が 20 歳から 18 歳になったのは、若者の意見が求められているに違いないと考え、18 歳で日本の政治にたずさわれるのは光栄であり、私たちの国は私たちの手で作るべきだと改めて思ったと述べました。最後に政治のことを考えるきっかけのお役を頂けたことをありがたく思うと締めくくると、参拝者から大きな拍手が沸き起こりました。

日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【一大事（いちだいじ）】

「これは大変、一大事だ！」などといい、大きな事件や出来事が起きたときに使われる。

もともとは仏教の言葉で、「一大事因縁」という。釈迦は一大事因縁をもってこの世に出現したという、『法華経』の一節からきた言葉。この一大事因縁とは

仏がこの世に出現する一大目的のこと。ひとつの偉大な目的、つまり、仏が人々に自分がさとした真理を説き、理解させることを意味している。

やがて「因縁」が略され、今のような使い方になった。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

庭 野 日 敬 開 祖

法 話 集

～開祖随感より～

「苦楽をともにする心」

仏教は、いくら經典を読んだからといって、それだけでは本当に分かるものではありません。人さまをご法に導き、手どりをしてみて、初めて仏教が本当に分かってくるのです。

人の心が本当に分からないと、仏さまのお慈悲がどんなに深いものかが分からないのです。お役をいただいて大勢の信者さんをお預かりする人は、なおさらです。こっちが「ああしてほしい」「こうしてほしい」と考えても、人は思うようには動いてくれません。

「どうしたら、みんなに分かってもらえるのだろう」と悩んだり苦しんだり、ときには、投げだしたくなってしまうことがあるかもしれません。自分の力の限界を思い知らされることもあると思うのですが、それが、自分を成長させてくれる学校なのです。

そうした心の葛藤を通してこそ、人さまの心が少しずつ見えるようになってくるのです。すると、仏さまがどんな思いで私たち一人ひとりの目覚めを待っていてくださるか、そのお慈悲の深さが身にしみてきます。その仏さまの思いが分かっただけ、自分に仏さまのお慈悲の心が具わってくるのです。

「聞いただけ聞いてもらえる」

「あの人の言うことなら間違いはない」という信頼関係ができてしまうと、互いに相手を受け入れる心になっていますから、ひと言ひと言が、砂が水を吸うようにしみ込んでいきます。逆に「この人はどうも……」という感じを持たれてしまうと、どんなによいことを話しても、聞いてもらえません。

その信頼感をつくらなければと考えると、自分の博学ぶりをありったけ開陳したりする人がいるのですが、そんな無理をするよりも、相手の話を聞くことに徹していけばいいのです。ただし、相手の話を本当に聞くというのは、博学をひけらかすよりずっと難しいので

すね。本当に相手に共感できないと、聞いたことにならないからです。

大事なものは、「そういう考え方もあるね」「そんな事情もあったんだね」と、相手の気持ちが理解できたことを、口に出して伝えてあげることです。すると「この人は私のことを本当に分かってくれているんだ」と、相手が心の突っぴりはずしてしまうのです。

その信頼関係さえできれば、間違いに気づいてもらうのはわけもないことです。素直に聞いた分だけ素直に聞いてもらえる、と肝に銘じていけば間違いありません。

「待つ心」

人を育てるのにいちばん大事なものは、「待つ心」ではないかと思います。人が自分の欠点や癖を直すのは、そう簡単なことではありません。会社で上司が部下に、いろいろ注意を与えて、「こんな失敗は、二度と繰り返すのではないぞ」と言い聞かせても、そういっぺんに直るものではありません。

よくお母さんが、子どもに向かって「分かったと言ったでしょう」「もうやらないと約束したでしょう」「何度言っても聞かせたら、あんたは分かるんですか」と言って叱りつけているのを見かけますが、頭で分かったのと、実際にそれができるとでは天と地ほどの開きがあるのです。

たとえば、右の棚の物を左の棚に移すだけの簡単なみえることであっても、長い間に身についたその人のやり方や癖は、なかなか抜けません。何度も失敗を繰り返しながら、次第に改まっていくものです。それを見守り、待ってあげる心の広さ、温かさを持たないと、人は育たないのです。

あなた自身、いまは悟りきったような顔をしていても、そうなるまでにどれだけの人に見守られ、待ってもらってきたか、思いだしてほしいのです。(つづく)

1～2月の主な教会行事

1月1日(火)	6:30～	元旦参り
4日(金)	9:00～	開祖さまご命日
7日(月)	9:00～	御親教
10日(木)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(火)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
20日(日)	10:00～	第53回成人式
20日～27日	6:00～	寒中読誦修行
2月1日(金)	9:00～	朔日参り
3日(日)	9:00～	節分会
4日(月)	9:00～	開祖さまご命日
10日(日)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(金)	9:00～	涅槃会・釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

時々刻々でも触れていますが、1959年12月に京都支部が発足しました。この年の8月13日夕方から14日にかけて、台風7号と前線の影響で京都府内は大雨に見舞われています。期間降水量は花背(京都市左京区)で500mmを超え、京都市、宇治市、福知山市など各地で河川の氾濫が相次ぎました。西洞院五条付近の床下浸水、西大路通り旧国鉄ガード下の水没、上烏羽一帯の軒下浸水、観月橋付近での浸水など。教会の歴史には8月に「一時神戸支部に移動」とあります。この因果関係について記憶している会員は見当たりませんが、「仏さまのお試し」と受け取られたのでしょうか、12月に発足しようとされた先達に脱帽です。